

国の指針 2 年余も隠蔽&計画ルート急変・・・！

都市計画道路・市道安倍三柳線のルート変更で、市長陳謝

08、12月定例会の「誤答弁」？

議員が言及していないのに、「計画ルートの変更を検討したい。」と市長答弁。

9月定例会までは、「ルート変更は困難。ルート変更は、構造令からも安全性が問題。」と一貫した姿勢であった。

それが・なぜ、3ヶ月で急変した？

しかも、「国の指針（改正）」通達を、議会に報告、協議もなく2年間も内部で隠蔽し続けてきた。

「計画ルート」の変更理由を、国と県の方針転換によるものと責任転化。

任期中の姿勢転換は、矜持の問題だ。

21.3.10 日本海

ルート変更で
野坂市長陳謝
米子市の野坂康夫市長は九日の市議会質問で、二月に都市計画道路・安倍三柳線のルートを変更すると表明したことに「地元を混乱させたのであらば、おわび申し上げる」と陳謝した。
遠藤通市議（一院クラブ）が、二〇〇六年十一月に国の指針が変更され都市計画変更が可能となった経過を振り返り、「国の指針が二年前に変わったにもかかわらず、議会に説明もなく、市長は一貫して『ルート変更はできない』と答弁してきた。なぜ今回はいいのか」とたどした。
これに対し、野坂市長は「昨年十一月に県から都市計画変更は可能との回答を得たため」と、ルート変更の方針を転換した理由を説明。国の指針変更を議会に説明しなかったことや、変更前のルート上の住民が長年にわたって私権を制限されてきたことなどについて、「皆さんにご迷惑をかけた。おわび申し上げます」と陳謝した。

「計画ルート」を巡って、くるくる変わる市長答弁

突如、「ルート変更」が飛び出た背景は、4ヵ月後の市長選にあった。「再選危し」という、市民反応の目先を変える選挙政策の目玉づくりにある。

市長の議会答弁は、「ルートは変えられない、学校移転（全面）の検討だ。」という姿勢から、「ルートは変えず、現在地での部分移転も現実的だ。」に変身し、「計画ルートを変えて、学校の移転はしない。」に大化けした。

特に、「ルートは変えず、現在地での部分移転も現実的だ。」に至っては、H8.3月定例会に、地元関係者から反対陳情が提出され全会一致で議会採択した経緯がある。

「県の態度が、変わった。」・・・責任転嫁へ

H18.11月の「国の指針（改正、計画の見直し）」通知で、「県の態度も変わったので、ルート変更をする。」という理由づけは、県にとって不愉快な一語に尽きる。

米子市は、H15.7月から5年間一度も県との協議をしていない。

H18.11月の「国の指針」通達を、2年間も隠蔽し続けてきた市長の責任は重い。

H18.3月定例会に、計画ルートの変更を求めた時、市長は、「計画ルートの変更は、構造令からも道路の安全性に問題がある。」と拒んだ。

今回の「ルート変更」は、H18.3定例会に提案したルートと同じだと言っている。別ルートならともかく、「同じ変更ルート」で「道路構造令からの安全性」について、市長がどのような説明責任を果たすのか注目の的である。

建設部長在籍 1 年、6 年間も継続・・・！

米子市は、県との協調に欠ける。これは、道路行政だけではない。米子市に所在する県総合事務所に、どれほど市の関係者が出向しているのか想像し難い。

「都市公園法」や「国の通達」の解釈運用は、県との協調関係が常日頃築かれていれば、取り立てて新聞ニュースに騒がれる程のことではない。

県との協調関係の構築は、人的配置を含めて継続性が求められる。しかし、建設部長ポストは、この6年間に6人の入れ替えである。これこそ失政ではないのか。